

所属業種	※建設コンサルタント	年齢 (〇代でも可)	30代
質問の目的	不明点の確認。		
質問箇所	何工法 (該当以外削除) : 【開削工法】 何頁(何行目・表・図の名称など) : 150 頁、解説図 3.20 盤ぶくれの検討方法、タイトルの 3 行上の 1 : 土留め壁の内面の周長		
質問の内容	<p>土留め壁の内面の周長について、鋼矢板の場合、次のどちらとすべきでしょうか。 凹凸を考慮した長さ。 凹凸を考慮しない長さ (同書 177 頁、上から 3~4 行目と同じ)。 どちらを選択しても、次のような不整合があります。 の場合、同書 177 頁、上から 3~4 行目の鋼矢板の周面摩擦力の考え方とは整合しない (盤ぶくれと杭の支持力とで摩擦力の考え方を揃えない場合、その理由も含めて教えて下さい)。 の場合、内面とは言えない。</p>		
回答	<p>土木学会使用欄</p> <p style="text-align: right;">(回答日 : 2008 年 10 月 20 日)</p> <p>“凹凸を考慮しない長さ”としております。 (* ) これにつきましては、177 頁 3 行目以降の内容と整合しております。また、ご質問頂きました内面とは言えないという点につきましては、実際の周長と異なるということのご指摘であると解釈するならば、確かに凹凸をみていないため厳密には真の周長ではありませんが、安全側であることも加味して、このような計算方法としております。</p>		

## 2006年制定 トンネル標準示方書(同解説) 質問回答様式

質問年月	2012年 6月12日	整理番号	開削工法-2012-001
所属業種	建設コンサルタント	年齢(○代)	
質問の目的	記載内容の確認		
質問箇所	○ 【開削工法】 ○ P33 第36条 土圧および水圧又は側圧の中の $q$ : 地表面上の荷重		
質問の内容	<p>『2006年制定 トンネル標準示方書 開削工法・同解説』P33の第36条 土圧および水圧又は側圧の中の<math>q</math> : 地表面上の荷重とは、P32の『解説表2.5 路面交通荷重』と同じ値を使用すると解釈して宜しいでしょうか。</p> <p>※道路協会では活荷重による水平土圧は10kN/m<sup>2</sup>で考えているようなので、土被りが浅い場合、側壁の受ける荷重にかなり相違がある気がしましたので確認したくメール致しました。</p>		
回答	土木学会使用欄 (回答日:2012年 6月 20日)		
	<p>第36条「土圧および水圧または側圧」の”<math>q</math> : 地表面上の荷重”の特性値は、地表面上の荷重が路面交通荷重の場合には、第34条「地表面上の荷重」の『解説表2.5 路面交通荷重』の値を使用して頂いて基本的には問題ありません。</p> <p>ただし、第34条の解説(1)にも記載しておりますが、『解説表2.5 路面交通荷重』は、自動車荷重のみから算出した値であるとともに(資料編2-1参照)、路面交通荷重の載荷位置と設計する構造物との位置関係などが、実際の設計条件とそぐわない場合は、詳細な検討を行って個別に地表面荷重の特性値を設定して頂く必要があります。</p>		